

は他では得がたい資料として感動を与えらると思う。

(榊原悠紀田郎)

〔東京都世田谷区北沢一―二―一六、平成十六年四月十日、A
五判、三一六頁、非売品〕

松木 明知 著

『華岡青洲と「乳巖治療録」』

かねてから華岡青洲先生研究者である松木明知先生が、華岡青洲の最大の事業である世界で最初に全身麻酔下乳巖の手術をされてから記念すべき二〇〇年後の今回、その「乳巖治療録」を上梓されたことは真に意義のあることと思います。

先生には各種文献をもとに和洲五条駅の藍屋かん(六〇歳)の乳巖手術を敢行された事実を詳細に述べられて乳巖手術の図式を掲載されて判明しやすくなりました。又それ以後の手術例なども研究されて明確にされたことは青洲の乳巖外科手術を知る上で大いに役立つものと思います。

尚、巻末には文献が数多く判明しやすく列記されていることは青洲研究者にとって今後大いに役立つものと思います。先生のご労作に対して心から敬意を表します。

所で、私は五代目ですが、初代の岩瀬敬介は額田郡高須邑より文政十二年八月春林軒に入門し、六十九歳晩年の青洲先生に師事して四年間の後免許皆伝となり帰郷し現在の岡崎市

福岡町にて開業しました。

帰郷に際し敬介は七十一歳の時、青洲先生寿像や先生の数多くの伝書及び二巻の秘伝図を持ち帰りました。伝書は青洲先生の秘伝講義録ともいべきものでその内容については、青洲先生医談、青林軒膏方便覧、東郭先生医談華岡先生評、吉益丸散方、丸散方考、撮要方(二巻)、外科處方録、青囊秘録、丸散録(完)、南涯先生青洲先生險証百門等、婦人良方、産科瑣言(全)、燈火医談(全)、華家門人姓名録、治痘要方、瘡科瑣言(全)、等であります。

又、秘伝の巻き物は二巻であり一つは整骨巻木綿の秘事であり、もう一つは外科の秘事であり、外科の秘事の一部は前半が欠落しており、よって青洲を有名にした乳巖の手術の図式は入っておりません。

吳秀三先生の華岡青洲及其外科の乳巖姓名録によればその手術例は敬介の入門した一八二九年では三例であったが翌年翌々年には各二例あり、帰郷の天保三年には一例も記載されておりません。松木先生の乳巖治療録によれば一八〇四年から一八〇八年の五年間では一六件で、一八〇九年から一八一三年の五年間では四三件と非常に多くなっていると述べられております。

敬介の春林軒入門中の日記によれば、某日、晴、青洲先生と吉野川に鮎釣りに行き帰宅後、舞妓を呼んで大いに楽しんであります。よって青洲先生もご壮健の様子であります。それにもかかわらず、晩年になって手術例が壮年期に比較し

て極めて少ないのは何故でありましょうか。又敬介の青洲先生の伝書の中にも乳巖手術の術式が含まれていないのは何故でしょうか。敬介の当時の日記に首つり、鎖陰痛、嘔吐不止者、等のことは述べてありますが乳巖手術のことは書かれてありません。

これは青洲先生が老年になり乳巖の手術も積極的にやられなくなったのが原因でしょうか、或いは敬介が乳巖の手術に対してあまり興味を示さなかったのが原因でしょうか。この点博士の松木先生のご見解をお示し頂ければ真に幸いです。

(岩瀬 敬司)

〔岩波出版サービスセンター〕、東京都千代田区神田神保町二
一三、電話〇三―三二六三―七〇七八、二〇〇四年三月十七
日、三三二頁、非売品〕

編集後記

八月十八日、新聞に衝撃的な記事が載っていた。「学会事務センター預かり金十六億円返還困難 東京地裁が破産宣言」(読売新聞朝刊)という内容である。本学会でも会員の年会費を預け、学会誌発行などの運営を学会事務センターに依頼している。▼この件に関して八月二十八日、本学会の臨時理事会が開かれ、七月二十一日現在の預かり金四十一万余円の金額は返還不能となるが、学会の顔である学会誌の発行に支障がないようにしたいとの意向が示された。今後も安心して投稿して下さい。▼学会事務センターの破産により、学会の事務をまた学会内部で取り扱うことになった。学会誌への原稿は順天堂大学に送って下さい。アクシデントがあり、五十巻三号の発行が遅れてしまい、深謝致します。本号は邦文原著一篇、英文原著二篇、研究ノート三篇、資料二篇を載せることができました。▼しかし、原著の投稿が少ないので、次号の発行に影響を与えている。特に英文論文の在庫がないのは頭が痛い。英文論文の数や量が日本学術振興会からの刊行補助金の大きな条件となっているという。今年は学会事務センターの預かり金返還不能とダブルパンチを受けた。役員や委員たちのさらなる努力は勿論だが、会員の協力も欠かせない。▼学会誌には、原著、研究ノート、資料の他に書籍紹介、文庫めぐり、広場というページも設けているが、最近原稿の集まりが悪くなっている。こちらの方も、会員の積極的な投稿を期待しています。

(蔵方 宏昌)